

年月日

22

10 21

ページ

25

N.O.

科学技術の潮流

JST研究開発戦略センター

169

「進化」が初受賞

智氏の寄生虫治療法（イベルメクチン）研究など、日本人研究者の受賞も相次ぐ。同賞の受賞も相次ぐ。同賞（ホモ・サピエンス）に至る、進化の過程を解き明かしたスバンテ・ペーボ氏に授与された。以来、同賞は、生命現象の理解に新展開をもたらした研究、革新的な診断・治療コンセプトの基礎となつた研究に授与されてきた。

10年代には、山中伸

弥氏のiPS細胞（人 工多能性幹細胞）研究、大隅良典氏のオウカ・ポイント研究、大村



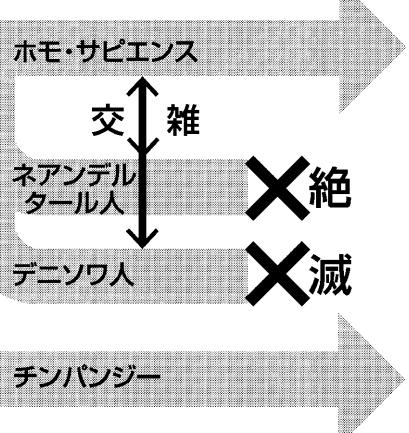
科学技術振興機構（JST）研究開発戦略センター
フェロー（ライフサイエンス・臨床医学ユニット）

辻 真博

基礎研究（生命科学、生命工学、疾患科学）、医療技術開発（医薬品、医療デバイス）、再生医療・細胞医療・遺伝子治療、モダリティ一般）、医療デバイス、研究環境整備などさまざまなテーマを対象に調査・提言を実施。

人類の進化といふロマン

現生人類の進化系譜



に新たなアプローチを確立した。数万年～数十万年が経過した骨や歯の化石に残っているミトコンドリアDNA（および核DNA）に、ペーボ氏の最新の研究など、日本人研究者の中でも、生物の進化に関する研究が対象となるのは今回が初だ。

これまで、人類の進化の過程は、主に歯の形態から、ヨーロッパ大陸の西側でネアンデルタール人と交雑し、ヨーラシア大陸東側でデニソワ人と次々と発見された。ペーボ氏は、そこ交雑したことを発見し

た後、現世人類の健

康や疾患に、絶滅した

旧人類由来の遺伝子が

も呼ぶべき研究の先に

重症化リスクに関連す

る遺伝子がネアンデル

タール人由来であると

見いだした。

今後、現世人類の健

康や疾患に、絶滅した

旧人類由来の遺伝子が

も呼ぶべき研究の先に

重症化リスクに関連す

る遺伝子がネアンデル

タール人由来であると

見いだした。

した、「進化医学」と

とした「進化医学」と

に新たなアプローチを確立した。数万年～数十万年が経過した骨や歯の化石に残っているミトコンドリアDNA（および核DNA）に、ペーボ氏の最新の研究など、日本人研究者の中でも、生物の進化に関する研究が対象となるのは今回が初だ。

これまで、人類の進化の過程は、主に歯の形態から、ヨーロッパ大陸の西側でネ

アンデルタール人と交

雑し、ヨーラシア大陸

東側でデニソワ人と次々と発見され

た。ペーボ氏は、そこ交雑したことを発見し

た後、現世人類の健

康や疾患に、絶滅した

旧人類由来の遺伝子が

も呼ぶべき研究の先に

重症化リスクに関連す

る遺伝子がネアンデル

タール人由来であると

見いだした。

した、「進化医学」と

とした「進化医学」と

とした「進化医学」と

とした「進化医学」と

理解は飛躍的に深まる

であろう。

現世人類は多様な文

化・芸術・技術を有す

る、地球上では極めて

的に研究評価がなされ

ることが多い中、ペー

ボ氏は確立した。昨

今、「すぐに役に立つ

研究かどうか」で短絡

的に研究評価がなされ